

第1回松山圏域活性化戦略会議 議事概要

(1) 開催日時・会場

開催日時：平成27年8月28日（金） 14:10～15:40

場 所：ひめぎんホール3階 第8会議室

(2) 出席者

「松山圏域活性化戦略会議名簿(当日出席者)」に記載

(3) 議事日程

1. 松山圏域活性化戦略会議規約の制定について
 - ・原案どおり決定。
2. 副会長の選任について
 - ・森田委員を副会長に選任。

(4) 説明事項

1. 新たな広域連携促進事業について
2. 今後の進め方について
3. 各団体からの意見について

(5) 議事概要

棟方委員

- ・大学がこの会議に関わることを感謝したい。今日の大学は、社会的な要請に応えるという社会的責任が鮮明になってきた。その一つの具体的な形としてこの会議が位置づけられる。学生の教育についても、キャンパスの中だけではなく、現実の社会が現場となっており、単一の学問的理解だけでは済まない、学際的な知恵や現実の経験を交えないと、課題解決に結びつかない。
- ・私自身はマーケティングが専門だが、マーケティングはターゲット志向である。こういった課題に対しては、松山圏域の生活者の視点から考え解きほぐすということが大事である。会長のお話にもあったが、歴史と伝統、自然の中であって、気品と優しさを実現する計画にしてほしい。また、安全安心にいきいきと暮らせるという、松山圏域が培ってきた生活文化のよいところを周辺にわかってもらうため、魅力を発信することをめざしたい。
- ・高齢化に伴うアクセスの整備は必須だが、予算の制約を受けるものでもあり、実現性については少し待たなければならない。

- ・松山圏域の広がりをもとにしたイメージにし、点から線、線から面になるようなストーリー性があるとアピールしやすい。人口減少に対応するためには、魅力を増して交流人口の増加による人口の維持を図ることが必要である。

本田委員

- ・地方創生は、地域金融機関としても最大の課題である。当行は地域金融機関として松山市の地方創生懇話会に参加するなど、各自治体とも連携して積極的な取り組みを行っている。また、地域における雇用の創生を図るため、総合的なコンサルティング機能を発揮すべく、日々取り組んでいる。
- ・当行の最近の事例では、農林水産分野でファンドを立ち上げ、媛っこ地鶏や宇和島のワールドファーマーズに投資している。リスクを恐れずに新たな事業に挑戦する事業者はそれぞれの地域において、極めて重要な存在である。今後、これらの事業がさらに成長していくには、行政の垣根を越えた経済圏・生活圏の連携が必要不可欠である。
- ・圏域には、既にブランド化しているものなど、豊かな地域資源がある。農業ファンドを有効に活用し、積極的に関与したい。
- ・ベンチャー分野では、愛媛県内を中心とする株式上場を目指すベンチャー企業への投資育成支援のため、「ベンチャーファンド2004」を設立した。実績としては、投資した11社のうち、6社が上場し、うち松山圏域からも4社が上場している。松山圏域には、中小企業が新たな事業にチャレンジしやすい環境があり、埋もれている資源もまだまだある。
- ・松山圏域の人口は65万2000人で、県の46%である。この圏域の活性化が県全体に与える影響は大きい。これまで培ってきた地銀の知見やノウハウを最大限に活用して、各自治体との連携や協働を強め、魅力ある地方を創生していきたい。

森委員

- ・農地を取得するためには、松山市では3反以上からという条件があるが、農協の正組合員になるためには1反でも構わない。新規就農者が参入する障壁を下げてほしい。1反で済むなら新しく農業にチャレンジしてみようという若者もでてくる。このことは松山圏域全体でご検討いただきたい。

藤村委員

- ・「松山圏域」の範囲を確認したい。伊予市には伊予商工会議所とともに、双海中山商工会があり、別の組織である。ここは会議のメンバーとして入ってもらわないのか。

越智委員

- ・松山市の経済団体としては、松山商工会議所のほか、北条商工会と中島商工会が入っているの、伊予市も双海中山商工会を入れてはどうか。

石橋委員

- ・双海中山商工会がメンバーに入っていないのは少し変ではないかという話をしていた。一緒に行動したほうが都合がいい。

事務局から説明

越智委員

- ・事務局から「検討します」という回答があったが、これは、ほぼ否定的な返事に聞こえる。どれもこれも入れるというのではないが、松山市からは北条、中島も出ているので、伊予市が伊予だけなのはいかがなものかと考える。

森田副会長

- ・国もいろいろな取組を始めており、地方創生の枠組みの中でも様々な予算がついている。新しい組織でやるなら、ぜひ夢のある新しい取組みを始めてはどうか。
- ・今後技術革新や ICT、人工知能が飛躍的に伸び、10 年ほどすれば、自動車の 70% が自動運転になると言われている。その実証実験を積極的に取りに行ってはどうか。例えば、ロボットを使った介護や、ドローンを使った配送にチャレンジするなど、新規に始める場合は軋轢もないであろう。
- ・もっと言えば、これだけ大学や企業、温泉、農業などの資源があるので、ミドル世代がシニア世代になっても、勉強や農業をしながら、健康増進する CCRC 構想を圏域全体で推進してはどうか。
- ・夢があり将来につながるものには予算もついてくると思うので、積極的に取り入れていただきたい。

武智委員

- ・各種団体の代表者が集まると、自治体だけで解決できなかった問題も、良い方向に変わっていくのではないかと思う。近隣の 3 市 3 町が、豊かな地域資源を有する松山圏域の強みを活かして、経済成長の牽引、生活サービスの向上など、あらゆる分野の調査検討を行いながら、全体が連携できればよいと思う。
- ・市町が独自性と個性を発揮しながら、魅力を高めてそれを発信していくことで、若い世代が大都会に転出せず、さらに若い世代を育んでもらい、人口が増えていくことを期待している。

高須賀委員

- ・各界を代表する方々のご出席のもと、連携中枢都市圏の形成に向けた第一歩を踏み出したことは嬉しいが、重責も感じている。
- ・今後、行政サービスを維持していくためには、圏域市町がお互いの強みや地域特性を生かして連携していくことが大事である。
- ・昨日東温市では、総合戦略会議を開催し、広域で取り組む問題についても提言をいただいたので、事務局にも伝えたい。

- ・これまで、観光と医療分野では連携を進めてきたが、今後より一層のネットワーク強化を図り、圏域全体の発展に繋げたい。

高野委員

- ・広域ということで、3市3町では、広域的な福祉の問題、防災の問題、大規模災害時の連携などの課題が残っているが、いろいろな形で広域の組織ができあがっている。
- ・久万高原町は圏域唯一の中山間地域で、高齢化率も45%を超えている。交流人口増加をめざし、道の駅が昨年オープンしたので、これを中心とした観光を推進するとともに、久万高原町だけに来てもらうのではなく、砥部町や、県は違うが隣の仁淀川町とも連携した観光交流を進めなければならないと考えている。
- ・反別の農地の許可基準の変更には大賛成である。久万高原町では農地の荒廃が進み、1反でも許可を出せば、古民家を改造して農業をやってみようかという人も出てくると思う。いろいろなものの誘致を考えるにあたり、3市3町が連携して考えていかなければならない。

白石委員

- ・広域連携が地方にとって大変重要であることは以前から言われているが、実際に6つの自治体に加えて住民や各種機関が一緒にやっていくのは難しい。いい意味で圏域内での競争も必要であり、その中で足りないものを補い合うという気持ちをもつ必要がある。「うちは知らないよ」という話になると、地域としての力が弱くなる。
- ・先行して広域連携に取り組んでいるところは全国的にも多いが、できるようできていないところもある。関西広域連合でも、九州でも、全体でやりたくても、最後まで参加していない自治体がある。
- ・今回は、圏域で共通認識を持ってやろうということだが、県内の市町でも、全てで人口が減少しているわけではない。松山市は増えているし、松前町や東温市も横ばいである。共通認識と言うのは簡単だが、実際はいろいろな難問が出る。それを克服して、お互いのメリットを生かし、デメリットを補うには、団結力と英知、発想の転換が必要である。これだけのメンバーが揃っているのだから、できるだけ多くの知恵を出して、実行することが大事である。

佐川委員

- ・砥部町は縦長い町で、山間部は本当に過疎化しており、まちづくりには大変苦労している。
- ・生活機能全般について松山市に頼っている部分が多いが、砥部町としての強みもある。
- ・松山圏域各市町の特徴を活かして、強みがあるところのはやし、弱みのあるところは助けあうといった連携に非常に期待している。みんなで知恵を発揮して今後のまちづくりにつなげたい。

野志会長

- ・私が市長に就任して5年目になるが、省庁に行くと、国も厳しく、地方に自助努力を求めるといふ雰囲気が非常に強い。各地方がどれだけ知恵を出すのか、汗を流すのかという点で、地域の努力が求められているという状況である。
- ・行政だけでできることは限られている。行政だけでは、エリアのパワーが落ちる。民間と連携することで地域のパワーが発揮できる。今回、総務省に採択されたのは、松山圏域だけではない。全国でもいろいろなエリアが手を挙げて認められている。産みの苦しみはあるが、それを乗り越えていいチームができれば、圏域の力をもっと発揮できるが、他地域でいいチームができれば、そこに抜かれてしまうだけである。
- ・具体的に申し上げますと、観光に訪れる人には市町の境目は関係なく、いいところがあればそこに行く。医療も松山圏域で体制を構築している。産みの苦しみを乗り越えて、圏域のパワーを発揮したい。

以 上